

新国立競技場整備事業における
ユニバーサルデザインワークショップ
について

○著作権

「独立行政法人日本スポーツ振興センターホームページ」(www.jpnsport.go.jp、以下「当ウェブサイト」という。)に掲載されている個々の情報(文字、写真、イラスト等)は、日本国の著作権法及び国際条約による著作権保護の対象となっています。

All Rights Reserved, Copyright(C), JAPAN SPORT COUNCIL

当ウェブサイトの内容の全部又は一部について、私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、当センターに無断で引用、転載複製を行うことはできません。また、引用等を行う場合は適宜の方法により、必ず出所を明示してください。

当ウェブサイトの内容の全部又は一部について、当センターに無断で改変を行うことはできません。

新国立競技場整備事業における ユニバーサルデザインワークショップ（UDWS）について

1. 経緯

- ・ 新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議（平成27年8月28日）において決定された「新国立競技場の整備計画」では、「世界最高のユニバーサルデザイン」が基本理念の一つに掲げられている。
- ・ また、本事業の「業務要求水準書」では、「設計から施工段階において、高齢者、障がい者団体及び子育てグループ等の参画を得てユニバーサルデザインワークショップを開催し、関係者の意見を集約した上で業務を進める。」とされている。
- ・ 上記を踏まえ、新国立競技場整備事業の事業者である大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体（以下「大成JV」という。）により、車椅子使用者、高齢者、子育てグループ等の14団体により構成されるユニバーサルデザインワークショップ（以下「UDWS」という。）を開催した。
- ・ UDWSでは、設計図による検証に加え、世界最高のユニバーサルデザインを導入したスタジアムとするため、実物大の検証模型やサンプル等も用いて細部にわたり確認と検証を行うことで、障害者団体等の要望等にも配慮した。

2. UDWSの実施

（1）UDWSの参加団体（計14団体）

- ・ 社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
（旧法人名 社会福祉法人 東京都知的障害者育成会）
- ・ 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会
- ・ 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク
- ・ 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ・ 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
（旧法人名 社会福祉法人 日本盲人会連合）
- ・ 一般財団法人 全日本ろうあ連盟
- ・ 特定非営利活動法人 DPI日本会議
- ・ 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- ・ 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ・ ミマモ・カフェ（子育て支援団体）
- ・ 公益社団法人 東京都老人クラブ連合会
- ・ 公益財団法人 日本補助犬協会（実施設計段階から参画）
- ・ 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会（個別ヒアリング）
- ・ 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟（個別ヒアリング）



（2）UDWSに参加した学識経験者

＜大成JVのユニバーサルデザインアドバイザー＞

- ・ 日本女子大学家政学部住居学科 佐藤克志教授
- ・ 東京大学分子細胞生物学研究所 伊藤啓准教授

＜JSCユニバーサルデザインアドバイザー＞

- ・ 東洋大学名誉教授 高橋儀平教授
（元東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授）

（3）実施方法

- ・ UDWSの実施主体は大成JV。（JSCは発注者として参加）
- ・ テーマ毎にワークショップ形式で意見交換

3. 実施スケジュール

(基本設計段階)

・平成28年	2月23日(火)	第1回UDWS	概要説明・意見交換等
・平成28年	3月18日(金)	第2回UDWS	意見等を踏まえた検討内容説明
・平成28年	4月18日(月)	第3回UDWS	意見等を踏まえた検討内容説明
・平成28年	5月10日(月)	第4回UDWS	トイレ計画
・平成28年	5月17日(火)	第5回UDWS	意見を踏まえた基本設計とりまとめ

(実施設計段階)

・平成28年	6月21日(火)	第1回UDWS	一般トイレ・乳幼児関連諸室
・平成28年	6月27日(月)	第2回UDWS	アクセシブルトイレ、外部移動空間
・平成28年	7月4日(月)	第3回UDWS	第1回、2回のまとめ
・平成28年	7月19日(火)	第4回UDWS	エレベーター、エスカレーター
・平成28年	7月25日(月)	第5回UDWS	サイン計画、補助犬トイレ等
・平成28年	8月4日(木)	第6回UDWS	第4回、5回のまとめ、手すり等
・平成28年	9月28日(水)	第7回UDWS	意見を踏まえた実施設計とりまとめ

(施工段階)

・平成29年	4月12日(水)	第1回UDWS	外部誘導サイン等
・平成29年	6月6日(火)	第2回UDWS	内部誘導サイン等
・平成29年	9月5日(火)	第3回UDWS	サイン、観客席モックアップ等
・平成29年	10月11日(水)	第4回UDWS	サイン、誘導ブロック等
・平成29年	11月15日(水)	第5回UDWS	内外部誘導関連・エレベーターモックアップ等
・平成29年	12月11日(月)	第6回UDWS	アクセシブルトイレ関連モックアップ
・平成30年	2月28日(水)	第7回UDWS	ピクトサイン
・平成30年	4月25日(水)	第8回UDWS	ピクトサイン、外部誘導サインモックアップ等
・令和元年	9月6日(金)	第9回UDWS	写真、映像等を用いた現場反映状況 報・確認

4. UDWSの意見を踏まえ改善した主な項目

- ・車椅子席を各層にバランス良く分散。
- ・外部階段の横に、エレベーターやスロープを増設。
- ・エレベーターの扉幅を車椅子使用者が出入りしやすいよう拡幅。
- ・外部に補助犬トイレを増設。
- ・トイレブース内のボタン配置を視覚障害者が認識できるJIS-S0026に準拠。
- ・外部エレベーターの位置をアクセスしやすいよう交差点付近に移動。
- ・スタンド縦通路の段差部分を視覚障害者が認識しやすいよう色分け。
- ・エレベーター扉上側に車椅子使用者が鏡越しに確認できるよう階数表示器を設置。
- ・エレベーターの階数ボタン全体が乳白に点灯するとともに触知サインのサイズを改善。
- ・アクセシブルトイレについて、各機器の配置と操作性について改善。
 - ①ベビーチェアクッション設置、②手摺の視認性が向上する色に改善、③一般トイレ大型ブース内の便器に子供用便座設置、④便器の高さを座りやすい高さに改善、⑤トイレ内の手摺、フックの形状を丸く改善、⑥オストメイトの方の器具が置きやすい棚の大きさに改善
- ・1層スタンド用に、地下1階だけではなく1階にも一般利用者用トイレを設置
- ・外部トイレの増設
- ・サイン計画はシンプルな構成とし、様々な利用者が認識しやすいグラフィック 等
- ・上記以外の主な項目等については、別添の「新国立競技場整備事業ユニバーサルデザインワークショップ報告書 2019年11月」を参照

新国立競技場整備事業ユニバーサルデザインワークショップ
報告書

2019年11月

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体

目次

1.観客席

車椅子・同伴席

- 1.サイトライン（眼高900mm対応）
- 2.電動車椅子充電対応
- 3.同伴席の圧迫感
- 4.手摺横桟対応
- 5.カップホルダー
- 6.優先席のマーク座席
- 7.座席点字プレート

2
3
4
5
6
7
8

2.外部移動空間

動線

- 1.外部階段（寸法・仕様）
- 2.外部点字ブロック（仕様・色）
- 3.水飲場
- 4.外部用エレベーター扉ガラス仕様
- 5.外部用エレベーター
- 6.音声誘導・逆流防止センサー
- 7.誘導手摺高さ

9
10
11
12
13
14
15

エレベーター

3.内部移動空間

動線

エレベーター

- 1.点字ブロック（コンコース）
- 2.扉幅
- 3.視覚障害者対応
- 4.緊急通報装置
- 5.音声案内
- 6.かご内インジケーター

16
17
18
19
20
21

4.客席内移動空間

縦通路

- 1.手摺の水平化
- 2.縦通路手摺点字
- 3.縦通路手摺角度
- 4.縦通路塗装色

22
23
24
25

5.トイレ

一般トイレ

- 1.音声触知板
- 2.地下1階トイレへの音声誘導方式
- 3.オストメイト・親子対応便房
- 4.扉の常開対応
- 5.手摺付き小便器・洗面カウンター
- 6.便座高さ
- 7.親子対応
- 8.小便器仕様
- 9.操作パネル音声誘導
- 10.ブース扉有効開口
- 11.折戸打掛錠対応
- 12.大型ブース（非常呼び出しボタン・フック）
- 13.非常呼び出しボタン紐付き対応
- 14.車椅子洗面カウンター仕様
- 15.ローカウンター
- 16.洗面カウンター高さ
- 17.トイレ内点状ブロック
- 18.オストメイト用小棚
- 19.手摺色
- 20.ベビーチェアクッション
- 21.大型ブース：車椅子仕様案内
- 22.フラッシュランプ点滅時間
- 23.折戸開閉表示
- 24.ベビーカーの乗り入れについて
- 25.介護などによる異性付添利用対応
- 26.待機者への付添利用対応
- 27.ストレッチャー対応
- 28.オストメイト対応
- 29.非常呼び出しボタン位置
- 30.多目的シート設置
- 31.電動扉対応
- 32.洗浄ボタン位置
- 33.可動式手摺ロックレバー表示
- 34.荷かけフック形状
- 35.自動開閉ボタン
- 36.通報システム
- 37.内部補助犬トイレ
- 38.外部補助犬トイレ

26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63

車椅子用トイレ

アクセシブルトイレ

補助犬トイレ

6.サイン

サイン全般

- 1.サインの色彩計画について
- 2.マップサインの設置高さ
- 3.目的施設までの距離表示
- 4.フロント
- 5.MAPサイン向き
- 6.多言語表記
- 7.現在位置表記
- 8.音声案内の順序
- 9.トイレ点字案内サイン
- 10.外部ゲート誘導サイン
- 11.触知案内サイン
- 12.外部ゲート誘導サイン（柱付）
- 13.補助犬ピクトグラム
- 14.男女共用トイレピクトグラム
- 15.ピクトグラムの統一化
- 16.カームダウン・クールダウン

64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79

サイン

7.集団補聴設備

集団補聴設備

- 1.配置計画
- 2.ヒアリンググループマーク

80
81

8.乳幼児関連

授乳室（ベビーケアルール）

- 1.ブース数・車椅子対応について
- 2.おむつ交換台の位置
- 3.男性利用対応
- 4.床仕上
- 5.配置計画

82
83
84
85
86

託児室・キッズルーム

ベビーカー置き場

1・観客席

車椅子・同伴席	1.サイトライン（眼高900mm対応）
要望・意見等 本スタジアムは、車椅子席の眼高を1000mmで設定した上でサイトラインを確保する設計となっているが、リクライニング式車椅子を利用する人、身体が小さい人及び子どもなど眼高が非常に低い人に対応できるよう900mmでもサイトラインが確保できる車椅子席を整備していたきたい。	
対応 1層バックスタンド、3層スタンドの車椅子席は眼高900mmでもほぼフィールド全体が視認でき、その他の車椅子席についても多少フィールド端部に見切りが生じるもののおおよそ視認できる環境である。なお、車椅子使用者がよりフィールドに近づくことができるようキックガードの位置を支柱の内側から支柱の外側（フィールド側）に変更するなど、眼高が想定より低い人のサイトライン確保の改善に努めた。 <車椅子席からのサイトライン> ※約175cmの人が立った状態 （車椅子使用者の眼高100cm） <キックガード：検証時> <キックガード：改善後>	

1・観客席

車椅子・同伴席	2.電動車椅子充電対応
要望・意見等 近年は車椅子使用者の社会参加の機会が増えてきており、電動車椅子を使用する人が増えてきている。電動車椅子が充電できるコンセントを席の近くに配置していただきたい。コンセントについては鍵付き（利用時に申請が必要）で運用するのではなく、鍵を付けずに自由に使えることが望ましい。	
対応 設置数、箇所については各車椅子エリアに1箇所、同伴者席前方に設置することとした。高さについては、使用性に配慮すると高い位置が望ましいが、サイトラインに配慮し斜めに折り曲げた手摺支柱の折れ点と蓋が干渉すると蓋の開閉ができなくなることも踏まえ、各層可能な範囲で極力高い位置に設置とした。なお、コンセントは自由に使えることを想定し、鍵なしとした。 <床からボックス中心までの高さ> 1層：約470mm 2層：約370mm 3層：約330mm 斜めに折り曲げた手摺支柱 <コンセントボックス> <拡大：コンセントボックス>	

1・観客席

車椅子・同伴席	3.同伴席の圧迫感
要望・意見等 同伴席と手摺のモックアップを確認した結果、同伴席と前面手摺までの距離が近く、圧迫感を感じる。サイトラインと座席の関係性を再度確認し、改善していただきたい。	
対応 モックアップ検証により、サイトラインが成立する範囲で同伴席を後方に移動させ、圧迫感を軽減させた。 1層：変更なし 2層：190mm後方へ移動 3層：270mm後方へ移動 ※一般席と同等のクリアランス（560mm）に改善  < 同伴者席 >	

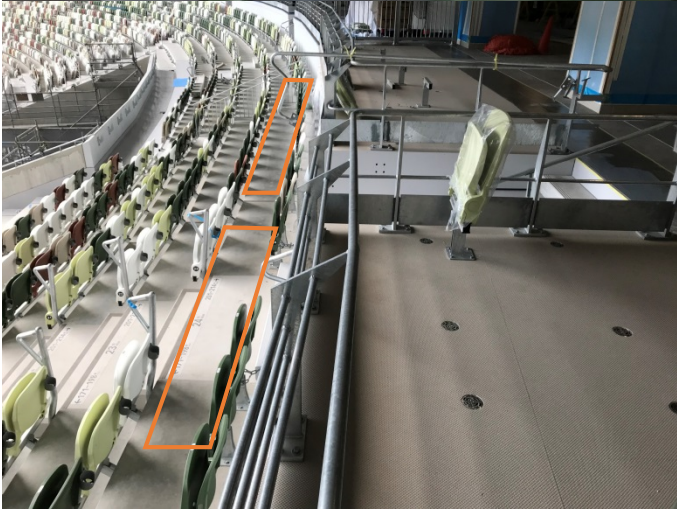
1・観客席

車椅子・同伴席	4.手摺横棧対応
要望・意見等 車椅子席前方手摺について、子どもの落下防止の対策は講じられているか。	
対応 落下防止に配慮し、モックアップ検証により、子どもの頭が入らない間隔（110mm以下※住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づく住宅性能表示制度によるバルコニーの手摺の基準に示された等級5を準拠）で横棧を追加した。  ▼ 	

1・観客席

座席	5.カップホルダー
要望・意見等 手話のほか、着席時に両手が自由に使えるよう、椅子にはカップホルダーを設置していただきたい。車椅子席のカップホルダー位置については、半身麻痺、利き腕等にも配慮して、座席の正面に設置していただきたい。また、使い勝手上、トップレール下部に設置していただきたい。位置を利用者が任意で変えられるような機構が可能な確認いただきたい。	
対応 椅子前方にカップホルダーを設置した。車椅子席・同伴席前については、車椅子席正面の手摺トップレール下中央に設置した。可動機構については、飲料等がこぼれる可能性があることから推奨できないため対応は行わない方針とした。  <車椅子席カップホルダー> <一般席カップホルダー>	

1・観客席

座席	6. 優先席マーク座席
要望・意見等 サイン（ヘルプマーク等）を設置し、周囲に特別な席であることが分かるようにしてほしい。 位置については、アクセス性に配慮し、縦通路等に近い端の席がよい。仕様については、色をフレキシブルに変えられるような仕様にしていただきたい。	
対応 通路から客席への出入口近辺に、総席数の1%約860席を優先席として設定し、優先席（priority seat）と表示したシートカバーを用意した。  < 優先席シートカバー >  < 優先席位置 >	

1・観客席

座席	7.座席点字プレート
要望・意見等 座席点字プレートの設置位置について、座面の裏側では、座面を倒したときには判別ができなくなる。また、座席点字プレートの点字は、極力指先での認識性をあげるため、JIS規格に規定されている範囲内における3/4の値を確保していただきたい。また、点字プレートが金属素地で印刷してあると光の反射で文字が見えなくなるため、視認性に配慮して、金属素地は避けていただきたい。	
対応 点字プレートの位置について、モックアップ検証により、視認性・触りやすさにおいて座面先端が最も妥当であると判断した。 点字について、JIST0921の範囲内における3/4の値を確保することとしたが、製作限界から「底面の直径」・「点の中心の垂直高さ」については対応が困難であることが判明したため、JIS規格の範囲内で設定したサンプル（底面の直径＝1.44mm・点の中心の垂直高さ0.45mm）での対応とした。 また、点字プレートは反射の少ない金属製とし視認性に問題ないことを確認した上で、素地のままとした。  < 点字プレート >  < 拡大：点字プレート >	

2・外部移動空間

動線	1.外部階段（寸法・仕様）
要望・意見等 外部階段について、踏面が広すぎると歩幅が大きすぎて、使いにくくなる。踏面350mm程度が望ましい。段鼻については、視認性に配慮していただきたい。	
対応 蹴上150mm以下、踏面350mm程度で計画した。段鼻部は濃色、その他を薄色とし、視認性が確保されるよう配慮した。  < 踏面：350mm以上 >  < 蹴上：150mm以下 >	

動線	2.外部点状ブロック（仕様・色）
要望・意見等 点状ブロックを認識しやすいよう、ブロック淵部仕上げはフラットにしていだきたい。 仕様については、鋳仕様では剥がれやすいため、ブロックタイプが望ましい。また、点状ブ ロックの周囲を黒いインターロッキングブロックで縁取ると側溝に見えるため避けていただき たい。色は流通している通常色の黄色が望ましい。	
対応 点状ブロック淵部はフラットとし、仕様については、適用基準としている『建築設計基準※』 に従い、ブロックタイプとした。なお、縁部の黒色のインターロッキングをなくす方針とした。 色については、市場に流通している標準的な黄色を採用した。  <外部：点状ブロック> ※建築設計基準 平成26年版 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課	

動線	3.水飲場
要望・意見等	
水飲み場は車椅子使用者等も利用できるようにしていただきたい。	
対応	
車椅子使用者や子どもが利用しやすい二段式水飲場とした。	
	
<外観：水飲み場>	

2・外部移動空間

エレベーター

4.外部用エレベーター扉ガラス仕様

要望・意見等

エレベーターの扉は外部の状況を確認できるようガラスにしていきたい。

対応

外部用エレベーターについては、日常利用も想定されることから、安全対策上ガラス窓対応とした。



<外部用エレベーター>

2・外部移動空間

エレベーター

5.外部用エレベーター

要望・意見等

外部用エレベーターについては行き先の階が1つだけなので、扉を閉めたら自動的に上下階へ移動するシステムとしていただきたい。外部用エレベーターの乗り場については、雨にかからぬよう大きめの屋根、袖壁を設置していただきたい。なお、袖壁についてはデザイン性を優先するのではなく、より多くの人が底の下を有効活用できるようにしていただきたい。

対応

扉を閉めたら自動的に上下階へ移動するシステムとした。外部用エレベーターの底については大きめの屋根を設置し、袖壁はより多くの人が底の下を利用しやすいよう凹凸をなくしたデザインとした。



<外観：外部用エレベーター>

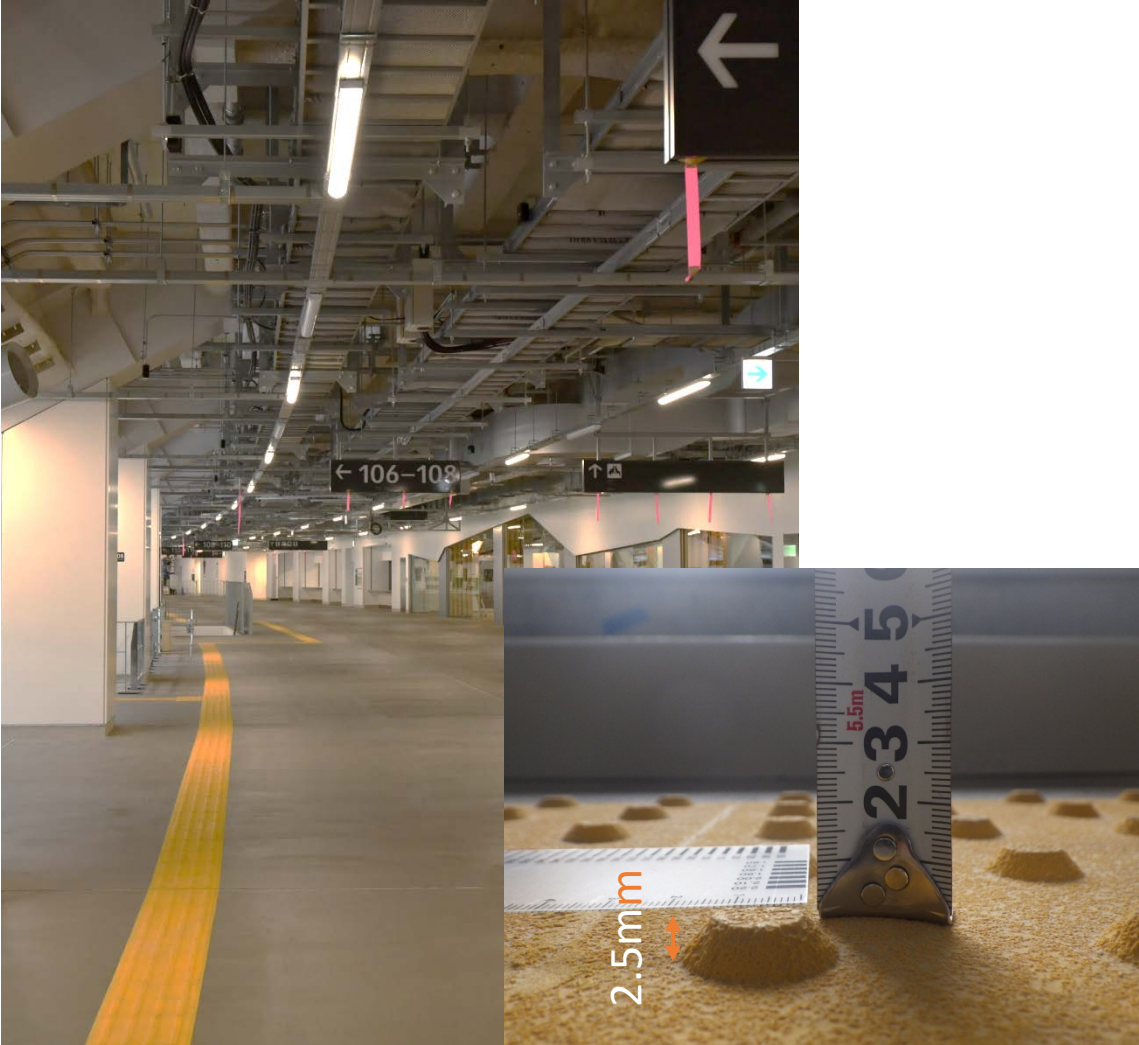
2・外部移動空間

エスカレーター	6.音声誘導・逆流防止センサー
要望・意見等 エスカレーターに逆進入防止センサーをつけていただきたい。	
対応 逆流防止センサーを搭載した大型光電装置（音声付）を設置した。  <外部用エスカレーター上部>	

2・外部移動空間

エスカレーター	7.誘導手摺高さ
要望・意見等	
誘導手摺高さをベルト高さに合わせていただきたい。	
対応	
誘導手摺高さをベルト高さに合わせた。	
	
<外部用エスカレーター下部>	

3・内部移動空間

動線	1.点状ブロック（コンコース）
要望・意見等	
コンコースの点状ブロックの高さについて、雨などで濡れる路面は滑らないよう5.0mmとし、濡れない路面は躓きを回避するため、2.5mmとしていただきたい。※交差部の突起高さを5.0mmで要望していたが、他の箇所と高さが変わると躓きの要因となるため、2.5mmとしていただきたい。 なお、縦通路上部や階段上部などは落下の危険性があるため、安全性に配慮して5.0mmとしていただきたい。	
対応	
屋内コンコースは雨掛かりとなることは少ないと判断し、2.5mmを選定した。交差部についても躓きの原因とならない2.5mmとした。縦通路上部は視覚障害者の安全性に配慮し5.0mmを採用した。	
	
<1Fコンコース点状ブロック敷設> <内部点状ブロック高さ（2.5mm）>	

3・内部移動空間

エレベーター	2.扉幅
要望・意見等 エレベーターの扉幅は極力かごと同じ幅にしていきたい。	
対応 車椅子使用者の利用頻度の高いエレベーターについて、機構上最大限である幅1800mm※とした。 ※かこの横幅は2100mmであり、エレベーター昇降路の横幅に対して、開閉扉を2枚扉にするなど特注品で対応した。  <エレベーター扉>	

3・内部移動空間

エレベーター

3.視覚障害者対応

要望・意見等

音声案内・浮き文字・手摺・鏡（凸面鏡）・点字を設置していただきたい。下記モックアップ確認に対する要望事項

- ①音声案内：エレベーター乗場のボタン位置について、認識できずにボタンを押すのに手間取るケースが多々ある。ボタンの近くから音声誘導が流れると認識しやすい。
- ②浮き文字：ボタンの浮き文字のサイズが小さい。大きくしていただきたい。
- ③鏡：車椅子ユーザーにとって開口部分が1800mmであれば全面の鏡を正面に配置する必要はない。また、弱視の方にとって境界認識ができなくなる錯覚をおこすか確認が必要である。

対応

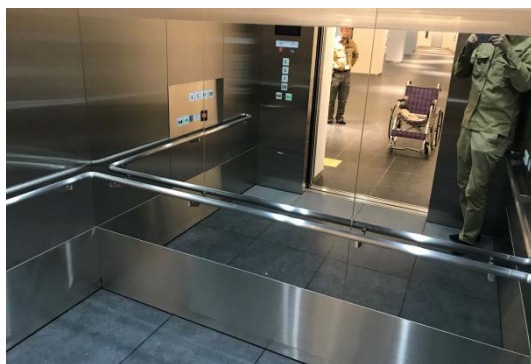
一般観客が利用するエレベーターを対象とし、指定の設備を設置した。

また、モックアップ確認時の要望への対応は以下の通り。

- ①音声案内：エレベーター乗場のボタン位置を認識できるよう、ボタン位置を知らせる音声誘導装置（シグナルエイド）をボタン上部に設置、さらにボタン手前に点状ブロックを敷設した。
- ②浮き文字：ボタン文字表示と浮き文字を位置・サイズ共に一致させた。
- ③鏡：
出入共通型：鏡の範囲は壁一面ではなく、高さが限定されている（FL+400-1500mmの範囲内）ことから錯覚は起こさないとご意見をいただいた。Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインを準拠し、かご幅一杯の設定とした。
貫通型：凸面鏡については、空間把握の正確性の観点からフラット鏡を採用した。



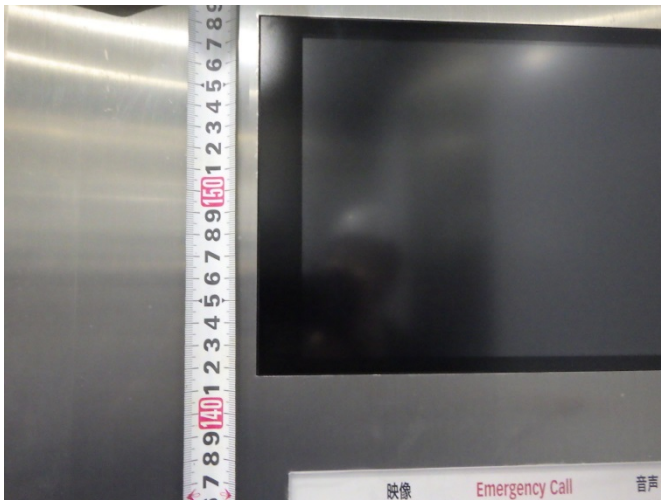
<ボタン浮き文字>



<鏡：出入共通型>



<鏡：貫通型>

エレベーター	4.緊急通報装置
要望・意見等 ①SOS ボタンと一体となっている聴覚障害者ボタンについては、防災センター側で適切な対応をしてもらえるよう統合はせずに単独でボタンを残していただきたい。 ②双方向モニターの呼び出しボタン説明表示板について、SOS ボタンという名称では内容が分かりにくい。混乱時でも一目でわかるような表記内容にしていきたい。 ③双方向モニターに自分の顔が見えるようにしていきたい。 ④双方向モニターの設置位置はコミュニケーションの取りやすい高さにしていきたい。	
対応 ①聴覚障害者ボタンは、SOSと表記した上で、映像ボタンと音声ボタンに系統を分けた単独設置とした。 ②映像で会話をする方、音声で会話をする方と、個別に表示を行う方針とした。 ③ソフトの開発が必要となるため、工期上対応は困難であると判断した。 ④モニター位置を設計時よりも下げた位置（FL+1500mm）に設置を行い、視認性を向上させた。  <エレベーター操作部分>  <拡大：SOSボタン>  <モニター高さFL+1500mm>	

3・内部移動空間

エレベーター	5.音声案内
要望・意見等	
エレベーターの音声案内については、常時4か国語では煩雑であるため、2か国語でよい。但し非常時の対応としては4か国語がよい。	
対応	
日常時は2か国語（日、英）、非常時は4か国語（日、英、中、韓）でモニター表示と音声を流すシステムとした。	
 地震 降りてください EARTHQUAKE, please exit  地震 请下电梯 地震 請離開電梯 지진 내려 주십시오	
<非常時のモニター案内>	

3・内部移動空間

エレベーター

6.かご内インジケーター

要望・意見等

かご幅に対して扉幅が大きく、袖壁が少ないエレベーターについて、階数表示器が扉面の側面にあり、車椅子使用者が鏡越しで確認する際に認識し難いため、扉面設置していただきたい。

対応

階数表示器（インジケーター）が扉面の側面に設置されているエレベーターについては、鏡越しで確認しやすいよう扉面の上部にインジケーターを設置した。

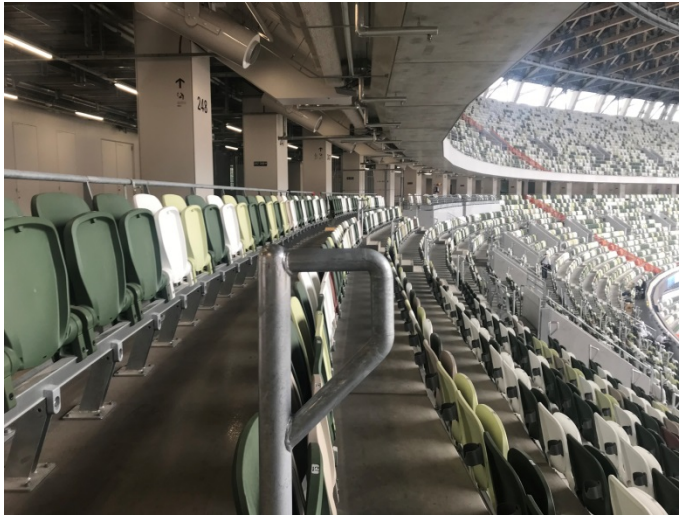


< 検証時 >



< 改善後 >

4・客席内移動空間

縦通路	1.手摺の水平化
要望・意見等 縦通路に設置する手摺で、降りはじめとなる部分には水平部を設けていただきたい。	
対応 縦通路中間部の手摺握り部分は斜めとなっているため、コンコース部、ボマトリー部において、降りはじめとなる独立手摺には水平部を設けた。 なお、水平部については、支柱部を若干上部に突出させることにより、握るうえでの認識性を向上させた。  <縦通路手摺上部>  <拡大：縦通路手摺上部> ※縦通路中間部の手摺握部分（斜め）は23°-ジ 参照	

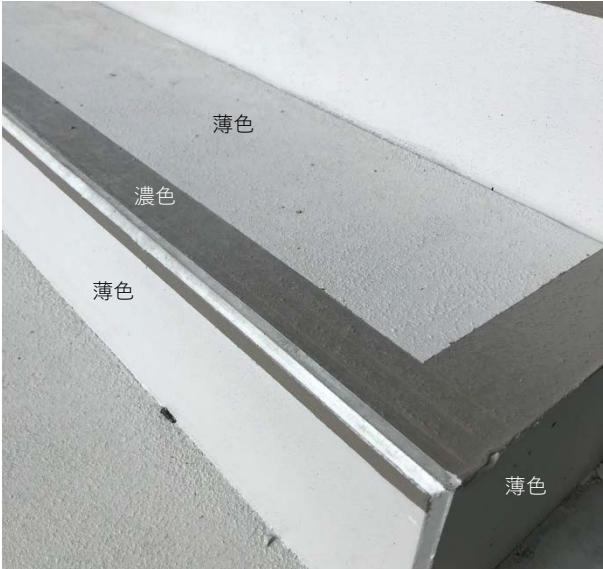
4・客席内移動空間

縦通路	2.縦通路手摺点字
要望・意見等 縦通路手摺点字は座面側に点字がくるよう配慮いただきたい。	
対応 墨字は上面、点字は座面側とした。	
< 拡大：縦通路手摺（点字） >	

4・客席内移動空間

縦通路	3.縦通路手摺角度
要望・意見等 モックアップ確認の結果、3層スタンドの縦通路の手摺の角度（34度）が急に感じる。	
対応 縦通路手摺については、モックアップ検証により1～3層スタンド全て20度で統一し、握りやすさに配慮した。 <参考：各層スタンド席の角度> 1層スタンド：20° 2層スタンド：29° 3層スタンド：34°  <拡大：縦通路手摺角度確認>	

4・客席内移動空間

縦通路	4.縦通路塗装色
要望・意見等 縦通路および段鼻は弱視にも見やすい色彩にしていきたい・ノンスリップ部の視認性を上げるために、底目地に薄色を塗装していただきたい。	
対応 縦通路の置き段の横は薄色で、段鼻は濃色での塗装とした。 ※試験施工を確認し、明度差を測定したところ、適切な明度差(実測値2.5)が得られていることを確認し、段先端が素地、及び底目地は濃色で問題ないことを確認した。  薄色 濃色 薄色 薄色  濃色 薄色 濃色 薄色 <縦通路一般部塗装> <縦通路上部塗装>	

一般トイレ

1.音声触知板

要望・意見等

トイレ入口付近に音声誘導装置（シグナルエイド）を設置していただきたい。なお、トイレ内の便器や手洗い等の位置を表示する触知サインの設置もお願いしたい。

対応

トイレ入口付近に音声誘導装置（シグナルエイド）及び触知サインを設置した。



<女性用トイレ入口付近>

一般トイレ	2.地下1階トイレへの音声誘導方式
要望・意見等 地下1階に降りるトイレへの音声誘導装置（シグナルエイド）について、分岐点であることから、1階、地下1階両方への設置が望ましい。	
対応 1階、地下1階の両階に音声誘導装置（シグナルエイド）を設置した。 <1Fシグナルエイド> <B1Fシグナルエイド>	

一般トイレ	3.オストメイト・親子対応便房
要望・意見等 一般トイレ内に車椅子使用者、ベビーカー利用者、オストメイト利用者も利用できる大型のトイレブースを設置していただきたい。入口近くに親子対応ブースとオストメイト対応ブースを設置することが望ましい。	
対応 車椅子席の多い1階には、アクセシブルトイレとは別に、一般トイレ内についても車椅子使用者も利用できる大型のトイレブースを設置した。その他の階の一般トイレについては、ベビーカーの乗り入れ対応等が可能となるよう、折戸対応でブース内スペースを広めにとった親子対応便房、オストメイト対応便房を設置した。 親子対応ブース、オストメイト対応ブースは原則、入口付近に設置した。  <オストメイト対応ブース>  <親子対応ブース>	

一般トイレ

4.扉の常開対応

要望・意見等

ブース扉は使用していない場合には開かれた状態が望ましい。

対応

一般ブースの扉については常開仕様とし、フラッグサインにより空いている状況を視認できる計画とした。また、折戸についても、同様に常開仕様とし、フラッグサインを設置した。



＜一般ブース扉のフラッグサイン（常開状態）＞



＜一般ブース扉のフラッグサイン（常開状態）＞

一般トイレ

5.手摺付き小便器・洗面カウンター

要望・意見等

手摺付き小便器・洗面カウンターは、今後利用対象者が増えることが予想されるので、適切な数で計画していただきたい。

対応

手摺付き小便器については、各トイレ入口に近い場所に1箇所以上設置した。手摺付き洗面カウンターについては、各トイレ入口に近い場所に1箇所設置した。

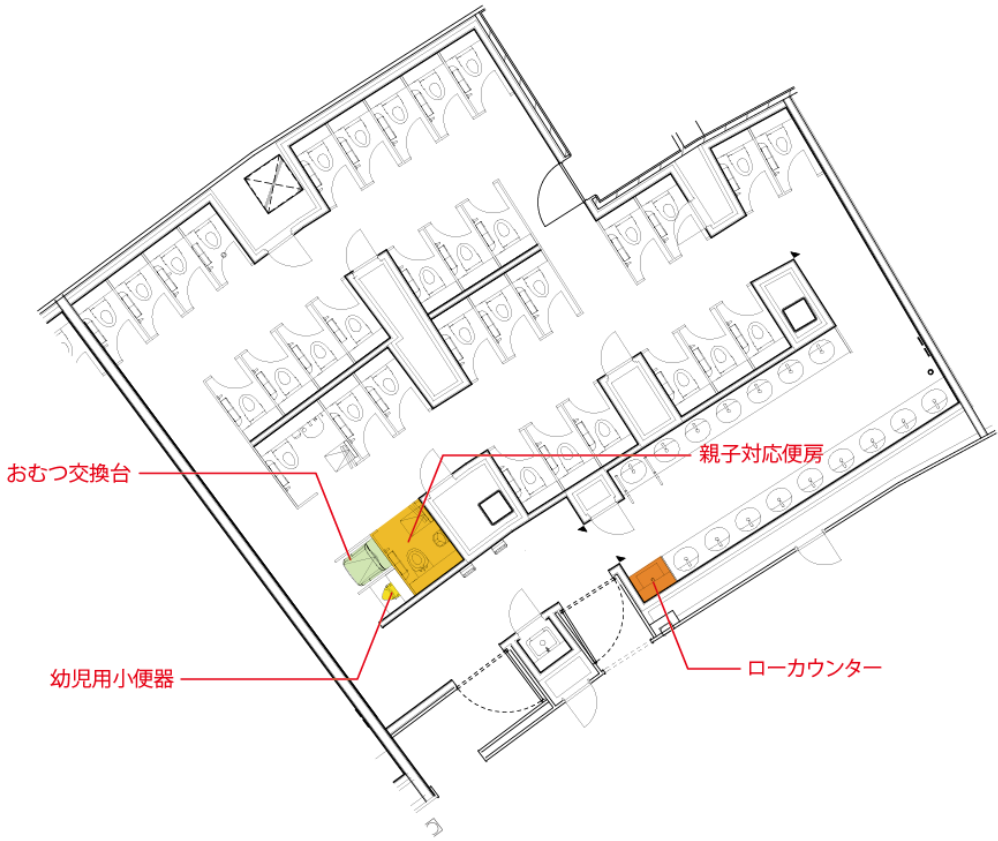


<手摺付き小便器>

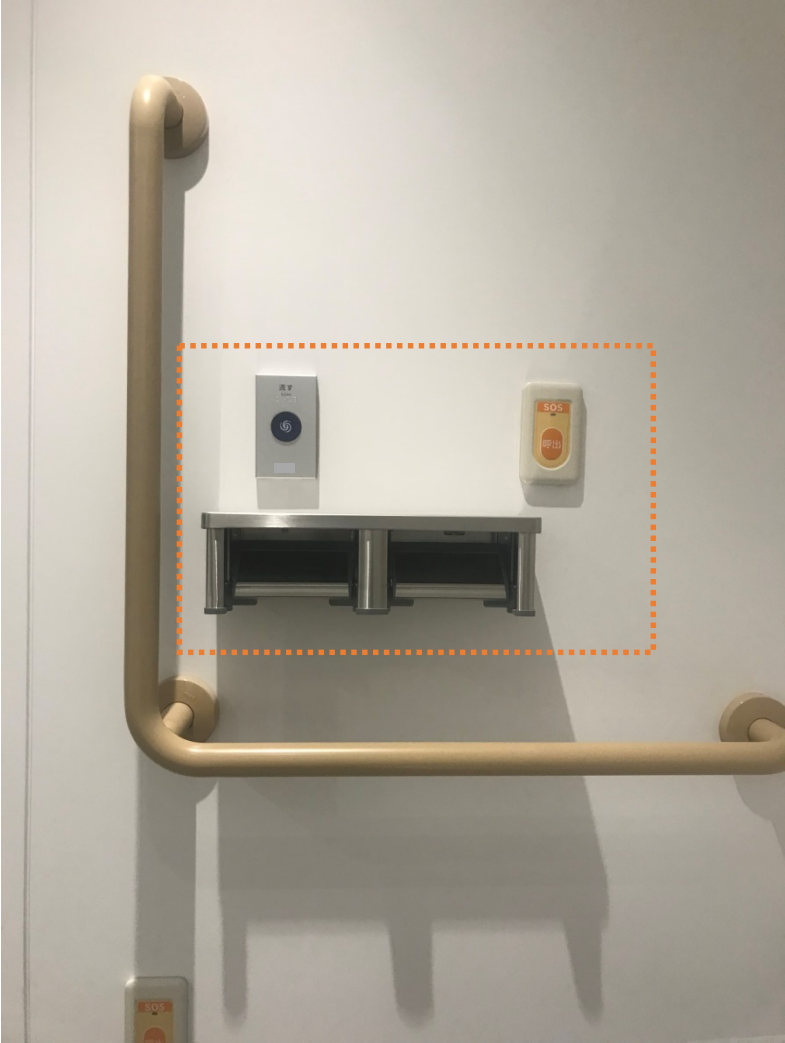


<手摺付き洗面カウンター>

一般トイレ	6.便座高さ
要望・意見等 便座の高さについては背の高い外国人等の利用にも配慮し、便座を高くするべきではないか。	
対応 日本人の平均身長が高くなってきていることにも配慮し、全ての便器の便座高さを420mmから430mmに変更した。  <一般用トイレの便器>	

一般トイレ	7.親子対応
要望・意見等 親子対応として、おむつ交換台、ローカウンター、親子対応便房、女性用トイレ内幼児用小便器は近接配置していただきたい。	
対応 レイアウト上可能な範囲で、近接配置とした。  <一般女性用トイレ平面図>	

一般トイレ	8・小便器仕様
要望・意見等 男性用トイレ内の小便器は子どもの利用も想定し、低リップ型※を採用していただきたい。 ※低リップ型：前方に張り出した受け部の高さが低く、小児利用が可能な小便器の型	
対応 低リップ型を採用した。  <小便器（低リップ型）>	

一般トイレ	9.操作パネル音声誘導
要望・意見等 トイレブース内に視覚障害者がボタン位置等を認識できるように、音声誘導装置（シグナルエイド）を設置していただきたい。	
対応 原則、すべてのトイレブースにおける洗浄ボタン等の配置を、視覚障害者が把握できるJIS-S0026対応としているため、トイレブース内に音声誘導装置（シグナルエイド）は設置していない。  < 洗浄ボタン等の配置 >	

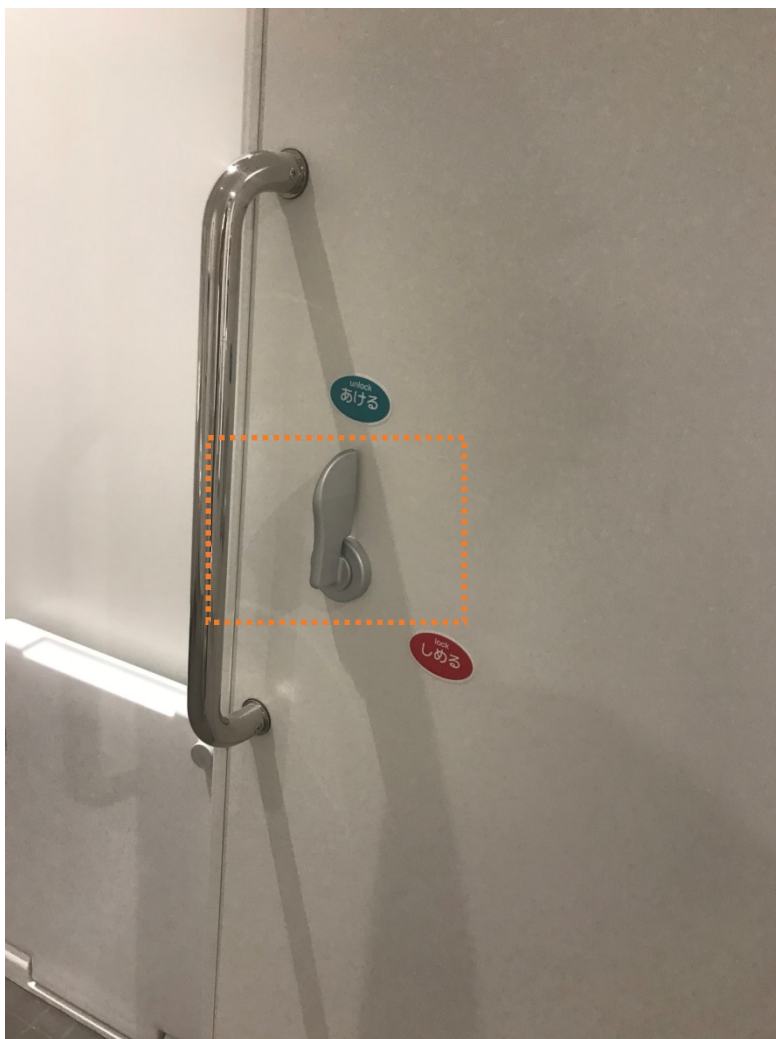
一般トイレ	10.ブース扉有効開口
要望・意見等 ブース扉の有効寸法は開戸は650mm、折戸は850mmにしていきたい。	
対応 折戸については有効開口850mmとした。また、開戸についてはブースサイズを変えずに有効開口650mmにすると、扉の開閉に支障をきたすことから扉サイズを600mm（有効開口：540mm）とした。 < 折れ戸の有効幅 > < 拡大：有効開口850mm >	

要望・意見等

大型ブース及びオストメイト・親子対応ブースについては、様々な方が利用しやすいよう打掛錠にしていきたい。

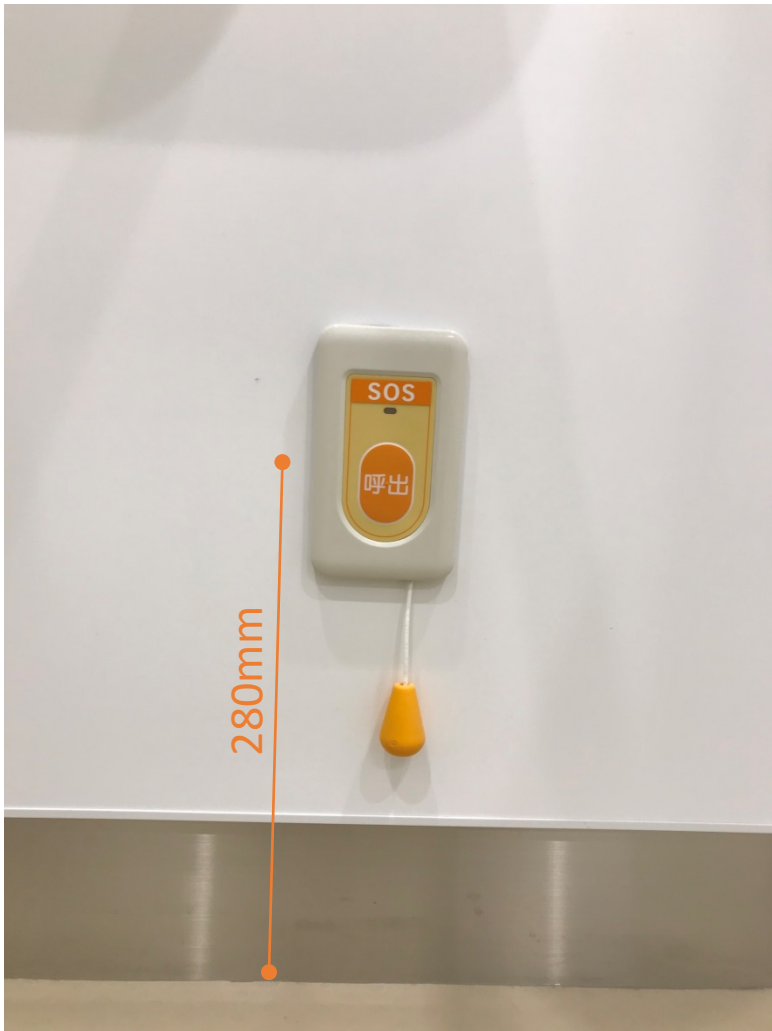
対応

打掛錠とした。なお、既製品の打掛錠よりも更に利便性が高まるよう、取手部分をより大きくした。



<大型ブース打掛錠>

一般トイレ	12.大型ブース（非常呼び出しボタン・フック）
要望・意見等 車椅子使用者が利用する大型ブースの非常呼び出しボタンについては、車椅子から落下してしまうケースを想定し、操作パネル部以外にも床付近にボタンを設置してもらいたい。また、荷掛けフックについても、ライニング上部に荷物を置くことが困難なケースが生じることから、高さが異なるフックを2カ所設置していただきたい。	
<p>対応</p> <p>車椅子使用者が利用する大型ブースについては、非常呼び出しボタンを2カ所（JIS S0026の配置とは別に床面に近い位置に1カ所設置）、フックについても2カ所設置した。</p> <div data-bbox="187 814 545 1771">  </div> <div data-bbox="545 814 1268 1771">  </div> <div data-bbox="291 1788 438 1821" data-cs="2" data-kind="parent"><フック></div> <div data-kind="ghost"></div> <div data-bbox="779 1788 1100 1821" data-cs="2" data-kind="parent"><非常呼び出しボタン></div> <div data-kind="ghost"></div>	

一般トイレ	1 3.非常呼び出しボタン紐付き対応
要望・意見等 トイレ内で転んでしまい非常呼び出しボタンに手が届かなかったことがある。大型ブースに設置した2つ目の非常呼び出しボタンの取り付け位置は床から280mmでよいが、紐が垂れたタイプを選定していただきたい。	
対応 紐付きの非常呼び出しボタンを設置した。  < 非常呼び出しボタン（下側） >	

一般トイレ

14.車椅子洗面カウンター仕様

要望・意見等

車椅子席の多い1階トイレ内の洗面カウンターについては、車椅子利用者利用を想定した仕様にしていただきたい。

対応

各トイレ1箇所、車椅子仕様カウンターとした。



<車椅子利用者利用を想定した洗面カウンター>

一般トイレ

15.ローカウンター

要望・意見等

子どもがローカウンターを使用する上で、水栓に手が届くよう配慮していただきたい。

対応

子どもも利用しやすいよう吐水口を一般仕様よりも手前に近づける形状とした。



<洗面カウンター（吐水口）>

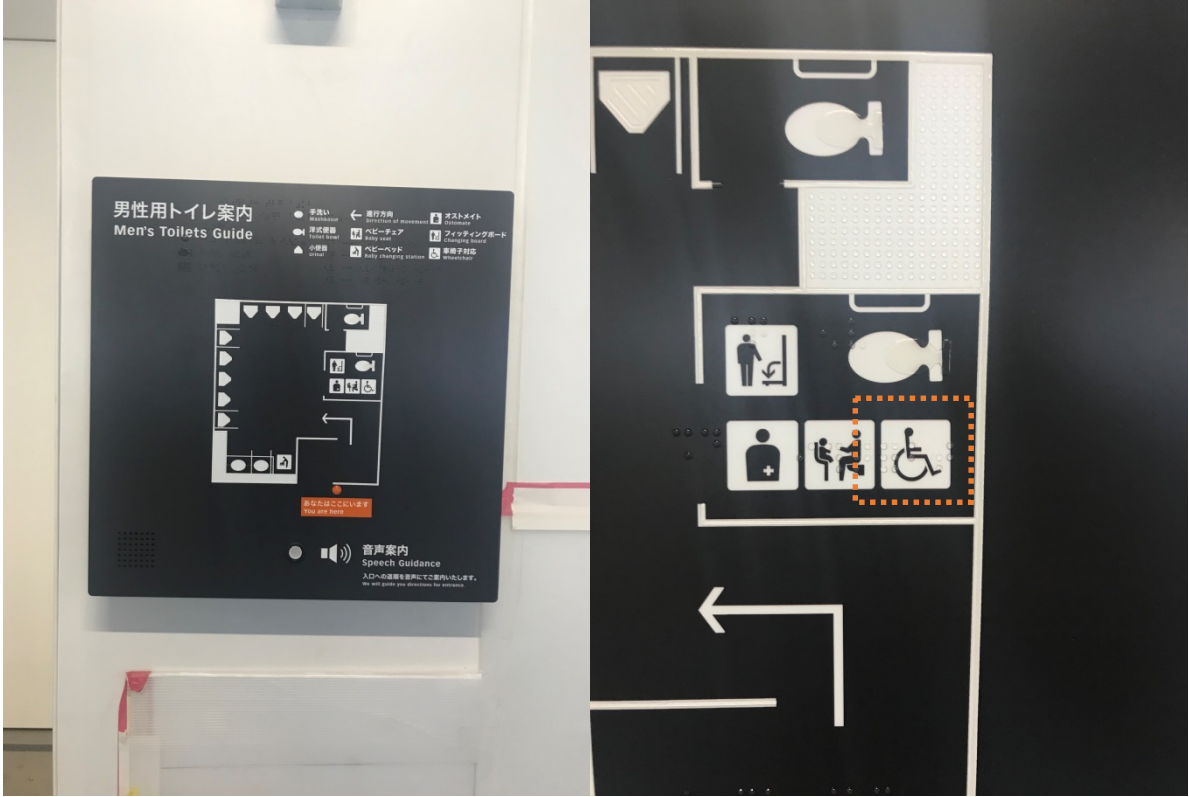
一般トイレ	1 6 .洗面カウンター高さ
要望・意見等 洗面カウンター高さが800mm～850mmでは低いのではないか。もう少し高くしていただきたい。	
対応 国内標準は750～800mmであるが、近年平均身長が高くなってきていること、国際大会開催で背の高い外国人等も利用することを想定し、男性850mm、女性800mm、ローカウンター550mmとした。  <男性用トイレ洗面カウンター>	

一般トイレ	17.トイレ内点状ブロック
要望・意見等 視覚障害者が内部を効率よく利用できるようにトイレ内に点状ブロックを敷設していただきたい。	
対応 トイレ内への敷設については、一般的な公共施設では類似事例が少なく、採用に関しては清掃等のこともあり、設置しない方針とした。なお、全てのトイレには入口付近に音声誘導装置（シグナルエイド）及びトイレ内の配置がわかるように触知案内サインを設置している。   <一般女性用トイレ> <触知案内サイン>	

一般トイレ	18.オストメイト用小棚
要望・意見等 オストメイト横の棚について、サイズを大きくしていただきたい。	
対応 一般トイレ内のオストメイト対応ブースにはやや広めの棚（200mm角）を設置した。  <器具等置き棚>	

トイレ共通	19.手摺色
要望・意見等 モックアップ確認の結果、手摺が壁と同色（ホワイト）で視認性が悪いため、色を付けていただきたい。	
対応 モックアップ検証により、ブース内L型・I型手摺をベージュで統一し、視認性を改善した。  <検証時>  <改善後>	

一般トイレ	20.ベビーチェアクッション
要望・意見等 ベビーチェアにクッションを設けていただきたい。	
対応 座部にクッションのある製品に変更した。  < 検証時 >  < 改善後 >	

一般トイレ	2 1.大型ブース：車椅子仕様案内
要望・意見等 大型ブースの車椅子利用対応を案内していただきたい。	
対応 トイレ出入口付近に設置するトイレ案内を兼用する触知板に、車椅子使用者が利用可能な表示を行った。  < 男性用トイレ触知板 > < 拡大：大型ブース部分 >	

一般トイレ	2 2.フラッシュランプ点滅時間
要望・意見等 モックアップで確認したフラッシュランプの点滅間隔が長い・もう少し危険を知らせるシグナルとして点滅間隔を短くしてほしい。	
対応 モックアップ検証により、点滅間隔が短くなるよう設定した。(2秒→1秒)  < 2 秒間隔（消灯時） >  < 1 秒間隔（点灯時） >	

一般トイレ	2 3.折戸開閉表示
要望・意見等 折戸の内部側に貼り付ける開閉を示すシールを設置していただきたい。	
対応 全ての折戸に開閉シールを設置した。  <大型ブース折戸開閉マーク>	

男女共用 トイレ	24.ベビーカーの乗り入れについて
要望・意見等 男女共用トイレについて、ベビーカーのまま乗り入れができるようにしていただきたい。	
対応 ベビーカーの乗り入れについて、十分な扉幅（W900mm）と一般的なサイズのベビーカーが入るスペースを有するトイレとした。 < 男女共用トイレ扉幅900mm > ※男女共用トイレについては77ページ 参照	

男女共用
トイレ

25.介護などによる異性付添利用対応

要望・意見等

介護などによる異性付添利用にも対応できるようにトイレ内にカーテンをとりつけられるようにしていただきたい。

対応

付添者がトイレを利用する際のプライバシーに配慮するため、待機者等の視線を遮るためのカーテンを取り付けられるよう、カーテンレールを設置した。(別途工事にてカーテンも設置済み)



<男女共用トイレ>

男女共用
トイレ

26.待機者への付添利用対応

要望・意見等

発達障害者等（待機者）とその付添者が共にトイレを利用するケースにおいて、付添者がカーテンを引いてトイレを利用している最中に、待機者が待機中に目を引くサインを追加して、数を数えられる仕様にしていきたい。

また、カーテン位置については、待機者の行動を付添者が管理できるよう、待機者を囲うように設置し、待機者が単独で外に出て行かないよう扉の開閉スイッチをカーテン内から除外していただきたい。

対応

男女共用トイレ内には、待機者が数を数えて待機できるサインを設けた。また、付添者が便器に座った位置からでも扉の開閉が分かる位置にカーテンレールを設置するとともに、開閉スイッチはカーテンの外側に設置した。



<待機中利用サイン>

5・トイレ

車椅子用 トイレ	27.ストレッチャー対応
要望・意見等 ALS（筋委縮性側索硬化症）などのストレッチャー利用者が入れるトイレはあるか・施設内に 一か所でもあると良い。ストレッチャー利用ができるトイレを施設内に1以上設置していただき たい。	
対応 1階にストレッチャー対応トイレ（幅約2.1m×奥行約3m弱）を、係員による補助も考慮し、管 理事務所近くである南側に1箇所設置した。 <車椅子用トイレ> ストレッチャー 移動軌跡 ストレッチャー対応トイレ (対応ストレッチャーサイズW700×L2025) S=1/100 (A4印刷時)	

車椅子用
トイレ

28.オストメイト対応

要望・意見等

オストメイトは一般トイレ内で使用することが多い。車椅子用トイレへの設置は最小限でよい。

対応

一般トイレ内においては、各トイレに1箇所オストメイト対応水洗設備を設置した。なお、車椅子用トイレ内については、セクター（メインスタンド・バックスタンド・南北サイドスタンド）毎に1箇所設け、機能の重複が起こらないように配慮した。



<オストメイト対応水栓設備>

車椅子用 トイレ	29.非常呼び出しボタン位置
要望・意見等 低い位置の非常呼び出しボタン位置については、跳ね上げ手摺下ではなく、L型手摺下の方が一般的に採用されている位置であるため使いやすい。場所を変更していただきたい。	
対応 L形手摺下（縦バー下）に設置した。  <車椅子用トイレ>	

車椅子用 トイレ	30.多目的シート設置
要望・意見等 トイレはベッド付のものを設置してほしい。	
対応 多目的シートを有した車椅子用トイレをセクター毎に1箇所計画した。  <多目的シート>	

車椅子用 トイレ	3 1.電動扉対応
要望・意見等 車椅子用トイレのドアは電動式引戸にしていきたい。	
対応 電動式引戸にて計画した。  <閉扉時>  <開扉時>	

車椅子用 トイレ	3 2.洗浄ボタン位置
要望・意見等 車椅子使用者は洗浄ボタンを便座とは反対側から手を伸ばして利用するケースがあることから、洗浄ボタンを50mmほど移動させていただきたい。	
対応 JIS-S0026の規格（便座先端から洗浄ボタン芯まで約0-100mm）に鑑みると、50mmの移動（150mm）は対応できないが、15mmの移動(115mm)であれば、許容範囲と考えられるので、15mm便座から離す方針とした。 < 洗浄ボタン芯：約665mm > < 便座先端：約550mm >	

要望・意見等

可動式手摺のロックレバーに操作方向がわかる表示をつけていただきたい。

対応

ロックレバー側面及び下部に矢印シールを設置し、操作が分かりやすく伝わるよう改善した。



<跳ね上げ手摺り操作表示>

要望・意見等

荷掛けフックの形状はぶつかっても怪我をしないよう、丸い優しいものに変更していただきたい。

対応

衝突して怪我をする恐れのある部分は先端がゴム形状のフックに変更した。



<フック形状>



<拡大：フック形状>

アクセシブル トイレ	3 5.自動開閉ボタン
要望・意見等 自動開閉ボタンについて、ボタン背面パネルが金属調の素材になっており、視認性が良好とはいえない。様々な利用者を想定して改善いただきたい。また、開/閉が似ており、誤認する可能性もあるので、ひらがな表記にいただきたい。押ボタンの上に点字を設置していただきたい。音声案内について、案内が煩雑になるため、4ヶ国語対応を2ヶ国語対応に変更していただきたい。	
対応 あけるボタン背面部は白色塗装を施し、視認性を向上させた。なお、しめるボタンも白であるので、縁を黒で塗装し、見やすくなるよう工夫した。表記内容も漢字ではなく、あける/しめるに修正した。 なお、点字対応については、ボタン操作について弱い力で押しても反応するよう設計されており、ボタン上に設置することで誤動作をおこす可能性があるため対応しない方針とした。音声案内については、2ヶ国語対応に変更した。  < 検証時 > < 改善後 > < アクセシブルトイレ開閉ボタン >	

アクセシブル トイレ	36.通報システム
要望・意見等 アクセシブルトイレに入り、閉じるボタンを押して、30分後に異常を知らせる信号を発信していただきたい。	
対応 非イベント時にも外部から利用できるトイレについては、30分後に扉が開いても、近くに人がいない場合も想定されることから、中央監視に信号を送る仕様とした。 なお、セキュリティ範囲の内部にあるトイレについては、イベント時の使用のため、トイレ外部のコンコースに人がいることを前提に、内部から延長（再度「しめる」のボタンを押す）しない限り、30分後には外部に異常を知らせるシステムとなっている。※なお25分が経過したら、「安全確保のため5分後に異常を知らせます。」と流れ、30分が経過したら、「中で異常が発生しています。」と音声が出る。表示灯は点灯するが、電気錠は施錠を保持している。  < 自動開閉ボタン >	

補助犬 トイレ	3 7.内部補助犬トイレ（補助犬が使用するための専用トイレ） 要望・意見等 車椅子使用者も利用できる転回スペース（有効1.5×2.1m以上）を有した、専用補助犬トイレを計画していただきたい（補助犬トイレは大きくなりがちなので、シンプルで使いやすくしてほしい）。専用トイレ以外にも車椅子トイレを補助犬トイレとして使用する想定であり、各階に複数設けていただきたい。 床仕上げについては、人工芝という意見もあるが、衛生面を考慮し、また、湿式だと濡れていた場合に、次に使用する犬が嫌がるため、乾式仕上げがよい。なお、清掃性に配慮し、床排水および排水目皿があったほうが望ましい（防水パンは不要）。 サイン表示を行えば、案内所で鍵を渡すのではなく施錠しない状態でよい。サインは厚生労働省指定のマークでよい。 その他設備について、汚物流しおよび人用の手洗いは必要であり、ダストボックスが汚物流し横に必要。ペットシートは設置されていれば便利である。また、ペットシートを片付ける際に、車椅子使用者は手が届かないため、マジックハンドが常備されているとよい。 対応 1 階北西部に1箇所1.7m×3m程度、専用の内部補助犬トイレを計画した。その他の階は、車椅子トイレをご利用いただくことを想定している。 床仕上げは清掃性に配慮し、ビニル床シートとし、排水目皿、汚物流し、手洗いを設けた。誘導標識としてのサイン表示を行うとともに、利用規約についても室内に設置した。 施錠対応については係員に申し入れをしなくとも利用できるよう、自動扉対応とした。 ※ダストボックス、ペットシート、マジックハンドについては、備品であるため本体工事としての整備は行わないこととした。なお、ダストボックスは汚物流しの横に想定した。  <内部補助犬トイレ>  <サイン・自動扉>
--	--

補助犬
トイレ

38.外部補助犬トイレ（補助犬が使用するための専用トイレ）

要望・意見等

外部補助犬トイレは、敷地北西のアクセスしやすい位置に計画し、補助犬トイレまでのルートに点状ブロックを敷設していただきたい。スペースについては、6畳程度の広さで雨天時にも対応できるよう、屋根付きで計画していただきたい。床仕上げについては、水はけのよいものがよく、排泄スペースには人工芝を採用していただきたい。屋外ではトイレの後を水で流す必要があるため、シャワー（人工芝の範囲に人が立ち入らずに使用できるような向きでレバー式の水栓）を設置していただきたい。

補助犬は人の視線が気になって犬が排泄できないため、人の移動がみえる範囲には植栽やフェンス等で目隠しを設置していただきたい。

対応

敷地北西に約2×5m程度の広さの外部補助犬トイレを計画した。視覚障害者のアクセス性に配慮し、点状ブロックを敷設した。トイレ全体をエレベーター外壁からせり出した庇で覆い、日射や雨の吹き込みを軽減する計画とした。

床仕上げについては、入口付近は水はけのよいコンクリート仕上げとし、奥の排泄スペースは人工芝の仕様とした。なお、清掃性に配慮し、シャワーを設置した。

※補助犬トイレのシャワーは、人工芝の範囲に人が立ち入らずに使用できるような向きを変更。また、水洗蛇口については手の不自由な方もご利用いただけるよう、レバー式を採用した。視線への配慮として目隠しフェンスをトイレ外周に設置している。



<外観：外部補助犬トイレ>

サイン全般

1.サインの色彩計画について

要望・意見等

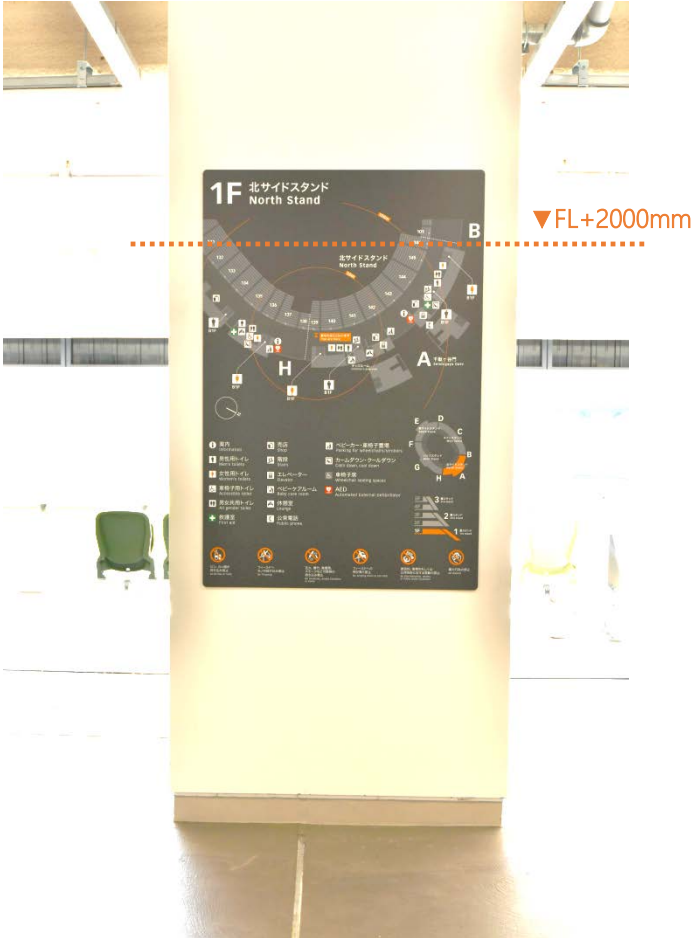
サイン計画は分かりやすくシンプルにしていいただきたい。また、色が誘導の判断材料とならないよう配慮していただきたい。

対応

サイン計画は分かりやすくシンプルな構成となるよう計画した。また、色が誘導の判断材料とならないようなグラフィック計画とした。



<外観：外部マップサイン>

サイン全般	2.マップサインの設置高さ
要望・意見等 マップサインについては、弱視者にもわかりやすいよう、FL+2000mm以下に案内情報を表示していただきたい。	
対応 弱視者にもわかりやすいよう、原則FL+2000mm以下に主要な案内情報を表示した。  < 内部マップサイン（FL+2000mm） >	

サイン全般	3.目的施設までの距離表示
要望・意見等 施設誘導サインについて、目的地までの距離を明記していただきたい。	
対応 施設誘導サインについては目的地までの距離（内部については5m単位※5m以内は1m、外部については10m単位）を記載した。 <内部案内サイン> <拡大：内部案内サイン>	

サイン全般	4.フォント
要望・意見等 視認性に配慮したフォントを採用していただきたい。	
対応 英数字については設計者において視認性調査を行った結果、視野狭窄や弱視者にとって視認性が良いと判断されたVectoraを採用した。和文についてはヒラギノゴシックを採用した。  The image displays four examples of signage with a dark background and white text. Each example includes an icon on the left and text in both Japanese and English. 1. Top: Icon of a person with a stroller, followed by 'ベビーカー・車椅子置場' and 'Parking for wheelchairs/strollers'. 2. Second: Icon of a wheelchair, followed by '車椅子席' and 'Wheelchair seating spaces'. 3. Third: Icon of a person sitting at a desk, followed by 'カームダウン・クールダウン' and 'Calm down, cool down'. 4. Bottom: Red icon with a white heart and lightning bolt, followed by 'AED' and 'Automated External Defibrillator'. < 拡大：内部マップサイン凡例 >	

サイン全般	5. MAPサイン向き
要望・意見等 マップサインについては、自身が向いている方向とマップの向きは整合するようにしていただきたい。	
対応 適用基準である「建築設計基準※」に従い、設置位置とマップ向きを整合させた。 <外部マップサイン> ※建築設計基準 平成26年版 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課	

サイン全般	6.多言語表記
要望・意見等 公共交通機関を表示するサインについては、日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語としていただきたい。	
対応 公共交通機関と整合を図るため、日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語の4か国語とした。 <外観：外部最寄り駅案内サイン>	

サイン全般	7.現在位置表記
要望・意見等 マップサインにおいて、現在位置の表記方法として、現在位置という書き方では漠然としていてわかりにくいので、英文表記とも一致する「あなたはここにいます」という表現にしていきたい。	
対応 マップサインにおいて「あなたはここにいます You are here」という表記で統一した。	

< 拡大：内部マップサイン >

サイン全般	8.音声案内の順序
要望・意見等 音声案内の主語の配列について、文末につけていただきたい。	
対応 JISにおいては、言葉の順序までは規定していないが、当事者にとって主語が文末にないと、聞いていて忘れるという観点から、文末に主語を配置する。 ●ゲート案内の音声案内例 「案内板後方向約 40m 先に建物カッコ競技場があります。 そこから建物に沿って左側に B・A・H・G ゲートがあり、建物に沿って右側に C・D・E・F ゲートがあります。」	

サイン	9.トイレ点字案内サイン
要望・意見等 触知板の位置についてはトイレ入口前（人の流動の妨げにならない位置）が望ましい。また、トイレ内部の配置や機能について音声で案内していただきたい。 地下1階トイレについては階段を降りた突き当りに音声誘導、トイレ入口付近に触知板+音声案内が望ましい。設置高さについて、サイン中央が床から1300mmになるよう設定していただきたい。	
対応 視覚障害者のトイレへの誘導については、入口前に音声誘導装置（シグナルエイド）と、トイレ出入口の位置を案内する音声付触知板を設置した。 地下1階トイレへの誘導については、階段前にトイレ入口まで誘導する音声誘導装置（シグナルエイド）を、階段を下りた先にトイレ出入口位置を案内する音声付触知板を設置した。 サイン盤面の中心高さを床から1300mmで設置した。  < 案内用触知板 >  < 拡大：触知板中央高さ（1300mm） >	

サイン	10.外部ゲート誘導サイン
要望・意見等 格子状のサインについて視認性に支障がでないよう検討していただきたい。ゲートへ誘導するポール状のルーバーサインは、視覚障害者からすると見えづらい。文字面だけでもルーバーをやめると、視認性が向上すると思われる。	
対応 モックアップ検証により文字部については、ルーバー状に分断するのではなく、文字をつなげスリットを埋めることで視認性を向上させた。  ＜検証時＞  ＜外観：ポール案内サイン＞  ＜改善後＞	

サイン	1 1.触知案内サイン
要望・意見等 触知図案内サインは、植栽帯から出っ張りがあると通行者がぶつかり危険なため出っ張りをなくしていただきたい。	
対応 通路側にサインの先端が出張らないよう、形状と設置位置を調整した。  <外観：外部触知マップサイン>	

サイン	1 2.外部ゲート誘導サイン（柱付）
要望・意見等 柱が白に対して、黒地のサインを貼り付け、白文字にしているが、かえって分かりにくい表示になっていないか。	
対応 白地に黒文字に変更する。なお、変更の際、縮小効果で文字が小さく見えてしまうことから、誘導性を向上させるために、文字サイズを大きくした。    <外観イメージ：ゲート案内サイン>	

サイン	1 3.補助犬ピクトグラム
要望・意見等 補助犬トイレピクトグラムについて、補助犬には介助犬、盲導犬、聴導犬の3種がいるが、ピクトグラムについては盲導犬を表現したピクトグラムとしていただきたい。また、ハーネスを左手で持つことが多いので、慣習に適合したピクトグラムにしていきたい。 ISOの補助犬マークは、盲人がリードをもっている設定になっている。マークではハーネスという感じがあまりないため、1本になっているリードを2本にすることで、補助犬のイメージができるのではないか。	
対応 新規でデザインをすると認識度が懸念されるため、ISO基準をベースとした改定案とした。 <外部補助犬トイレサイン>	

サイン	1 4.男女共用トイレピクトグラム
要望・意見等 性別に関係なく利用できる、または介助者と共に利用できる付添トイレについては、新たな概念のトイレであることから、相応の名称とピクトグラムをご検討いただきたい。	
対応 室名表記及びピクトグラムは公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（エコモ財団）が公表した室名「男女共用お手洗い」及びピクトグラムを採用した。なお、一般的に普及していない室であることから、室の説明書きを併記することとした。 ※エコモ財団が公表した名称は『男女共用お手洗い』だが、施設内整合を図る観点から『男女共用トイレ』を採用した。  <トイレ機能案内を扉に表示>	

サイン

15.ピクトグラムの統一化

要望・意見等

ピクトグラムについては、JISに制定されているものはそのまま利用していただきたい。

対応

JIS（2018年2月時点）を準拠したピクトグラムとした。

※なお、JISにて規定がないピクトグラムについては、一般流通しているピクトグラムをベースとし、JISピクトグラムの形態を模写したピクトグラムを作成し、理解度調査・視認性確認を行った上で決定した。

A

JISを準拠するもの

01 (電)

ベビーチャイルド

Baby care room

02 (電)

喫煙室

Smoking room

03 (電)

救急室

First aid

04

案内

Information

05

コインロッカー

Coin lockers

06 (電)

自動販売機

Vending machine

07 (電)

水飲み場

Water fountain

08

鉄道

Railway

09

バスのりば

Bus stop

10

エスカレーター

Escalator

11

オストメイト

Ostomate facilities

12 (電)

自転車置き場

Bicycle parking

13

階段

Stairs

14

エレベーター

Elevator

15

トイレ

Toilets

16

女性用トイレ

Women's toilets

17

男性用トイレ

Men's toilets

18

身体障害者トイレ

Access toilet for disabled

19

スロープ

Access ramp

20 (電)

ベビーカー・車椅子専用

Strollers & Wheelchairs only

21

公衆電話

Public phone

22

シャワー

Shower

23

更衣室(女性)

Changing room (female)

24

更衣室

Changing room

25

禁煙

No smoking

26

火気厳禁

No open flame

27

自転車乗り入れ禁止

No bicycles

28

ベビーカー・車椅子禁止

No baby carriages / Strollers

<JIS規格のピクトグラム一覧>

B

JISに規定がないピクトグラムを、新しく制作するもの

29

チャイルドボックステーション

Children's book station

30

チャイルドボックステーション

Children's book station

31

チャイルドボックステーション

Children's book station

32

チャイルドボックステーション

Children's book station

33

チャイルドボックステーション

Children's book station

34

チャイルドボックステーション

Children's book station

35

チャイルドボックステーション

Children's book station

36

チャイルドボックステーション

Children's book station

37

チャイルドボックステーション

Children's book station

38

チャイルドボックステーション

Children's book station

39

チャイルドボックステーション

Children's book station

40

チャイルドボックステーション

Children's book station

41

チャイルドボックステーション

Children's book station

42

チャイルドボックステーション

Children's book station

43

チャイルドボックステーション

Children's book station

44

チャイルドボックステーション

Children's book station

45

チャイルドボックステーション

Children's book station

46

チャイルドボックステーション

Children's book station

47

チャイルドボックステーション

Children's book station

48

チャイルドボックステーション

Children's book station

49

チャイルドボックステーション

Children's book station

50

チャイルドボックステーション

Children's book station

51

チャイルドボックステーション

Children's book station

52

チャイルドボックステーション

Children's book station

53

チャイルドボックステーション

Children's book station

54

チャイルドボックステーション

Children's book station

55

チャイルドボックステーション

Children's book station

56

チャイルドボックステーション

Children's book station

57

チャイルドボックステーション

Children's book station

58

チャイルドボックステーション

Children's book station

59

チャイルドボックステーション

Children's book station

60

チャイルドボックステーション

Children's book station

61

チャイルドボックステーション

Children's book station

62

チャイルドボックステーション

Children's book station

63

チャイルドボックステーション

Children's book station

64

チャイルドボックステーション

Children's book station

65

チャイルドボックステーション

Children's book station

66

チャイルドボックステーション

Children's book station

67

チャイルドボックステーション

Children's book station

68

チャイルドボックステーション

Children's book station

69

チャイルドボックステーション

Children's book station

70

チャイルドボックステーション

Children's book station

71

チャイルドボックステーション

Children's book station

72

チャイルドボックステーション

Children's book station

73

チャイルドボックステーション

Children's book station

74

チャイルドボックステーション

Children's book station

75

チャイルドボックステーション

Children's book station

76

チャイルドボックステーション

Children's book station

77

チャイルドボックステーション

Children's book station

78

チャイルドボックステーション

Children's book station

79

チャイルドボックステーション

Children's book station

80

チャイルドボックステーション

Children's book station

81

チャイルドボックステーション

Children's book station

82

チャイルドボックステーション

Children's book station

83

チャイルドボックステーション

Children's book station

84

チャイルドボックステーション

Children's book station

85

チャイルドボックステーション

Children's book station

86

チャイルドボックステーション

Children's book station

87

チャイルドボックステーション

Children's book station

88

チャイルドボックステーション

Children's book station

89

チャイルドボックステーション

Children's book station

90

チャイルドボックステーション

Children's book station

91

チャイルドボックステーション

Children's book station

92

チャイルドボックステーション

Children's book station

93

チャイルドボックステーション

Children's book station

94

チャイルドボックステーション

Children's book station

95

チャイルドボックステーション

Children's book station

96

チャイルドボックステーション

Children's book station

97

チャイルドボックステーション

Children's book station

98

チャイルドボックステーション

Children's book station

99

チャイルドボックステーション

Children's book station

100

チャイルドボックステーション

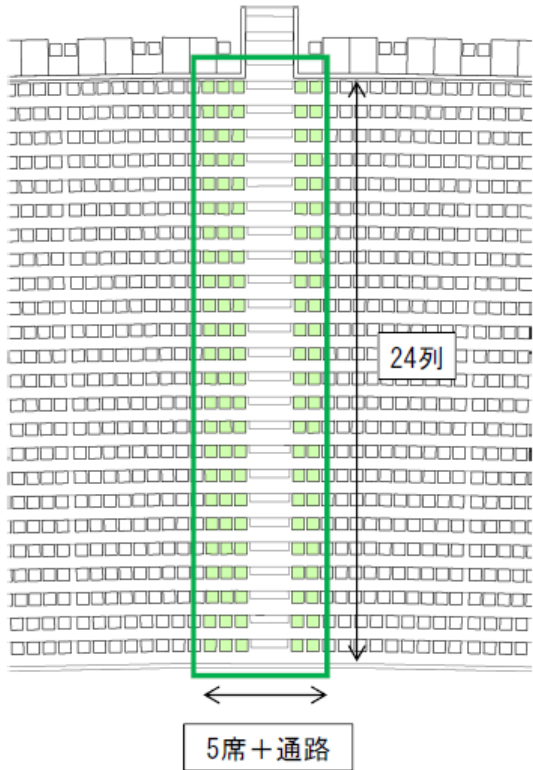
Children's book station

<JISになく新しく製作するピクトグラム一覧>

<JISになく新しく製作するピクトグラム一覧>

サイン	1 6.カームダウン・クールダウン
要望・意見等 休憩室については、気持ちを静めることができる小部屋としてカームダウンという表記を加えていただきたい。	
対応 室名表記及びピクトグラムはエコモ財団が策定した室名「カームダウン・クールダウン」及びピクトグラムを採用した。なお、一般的に普及していない室であることから、エコモ財団が公表した説明書きに従い「この部屋は気持ちを静めるための部屋です。」という室の説明書きを併記することとした。  < 室機能を扉に表示 >	

7・集団補聴設備

集団補聴設備	1.配置計画
要望・意見等 集団補聴設備は利用頻度の高い1層に設置し、設置想定位置は、大型映像の見えやすい位置にしていきたい。座席のバリエーションを確保するため、縦通路に平行にしていきたい。	
対応 1層メインスタンド・バックスタンド・北サイドスタンド、2層メインスタンドに集団補聴設備を設置し、縦通路と平行となるよう配列を見直した。 なお、全ての集団補聴設備を設置した席から南北どちらかの大型映像が見えることを確認している。   <大型映像の見え方> <ヒアリンググループ席イメージ> ※1層スタンド	

7・ 集団補聴設備

集団 補聴設備	2.ヒアリンググループマーク
要望・意見等 集団補聴設備マークについては国際基準マークではなく、国内基準マークにしていただきたい。	
対応 国立の競技場であり、国際的なイベントを開催することから、外国人にも認識できる国際マークも必要であることから、国内マークと併記する対応とした。 (サイズはサンプルによる確認の結果40mm×40mmとした)  <ヒアリンググループマーク>  <拡大：ヒアリンググループマーク>	

8・乳幼児関連室

授乳室 (ベビーケアルーム)	1.ブース数・車椅子対応について
要望・意見等 授乳室内部は車椅子使用者も入れるよう、可能な限り大きいスペースを検討していただきたい。なお、通過する扉は少ないほうがよい。ブース数は車椅子使用者対応1箇所、その他利用者対応2箇所計3箇所以上としていただきたい。 調乳台に車椅子使用者が寄りつけるよう配置を工夫していただきたい。 床仕上をコルク床にしている、車椅子使用者の入室が断られるケースがあるため、配慮していただきたい。	
対応 車椅子の方がご利用いただけるよう、可能な範囲で大きくなるよう配慮し、通過する扉はなくし、カーテンが取り付けられるようカーテンレールを設置。1階については3ブースの確保がスペース制約上困難なので、2ブースを基本とする。車椅子使用者用授乳室をメインスタンド・バックスタンドに1か所ずつ計画した。2階、3階については3ブースの確保、4階については車椅子席があるサイドスタンドの授乳室については3ブースを確保する計画とした。 調乳台に車椅子使用者が寄りつけるよう調乳台の両側にスペースを確保した。床仕上については、コルクシートではなくビニル床シートを採用した。  < 調乳台両側車椅子スペース >  < 授乳室動線カーテンレール >	

授乳室 (ベビーケアルーム)	2.おむつ交換台の位置
要望・意見等 おむつ替えはトイレで行う行為であり、仕切りがあったとしても、その隣で授乳するのは抵抗を感じるため、おむつ替えのスペースと授乳スペースがそれぞれ独立した部屋で、別々の出入口を持つ配置にしていきたい。	
対応 おむつ交換台は授乳室、一般トイレ、男女共用トイレ内に設置した。また、授乳室内においておむつ替えが必要となる場合も想定されることから、授乳室内にも設置をしたが、おむつ交換台は可能な範囲で授乳ブースから離れた位置とした。なお、本計画は東京都福祉のまちづくり条例の配置例にも則っている。 < 授乳室平面図 >	

8・乳幼児関連室

授乳室 (ベビーケアルーム)	3.男性利用対応
要望・意見等 性別に関係なく授乳室を利用することから、授乳ブースはカーテン対応ではなく、施錠が可能なブース対応していただきたい。授乳ブースと調乳台の境界にはカーテンを設置し、女性が安心して利用できるような工夫をしていただきたい。なお、アコーディオンタイプは車椅子使用者が利用しにくいいため、車輪が絡まない足元が開放されたカーテンにしていきたい。	
対応 授乳ブース自体は施錠が可能な扉タイプのブース対応とした。なお、車椅子使用者の利用も想定したブースは扉とせずカーテンを取り付けられるようカーテンレールとした。また、授乳ブースと調乳台の境界にもカーテンを取り付けられるようカーテンレールを設置した。  <左上：車椅子使用者も想定したブース> <右上：施錠可能な授乳ブース> <左下：授乳ブースと調乳台の境界のカーテンレール>	

託児室 キッズルーム	4.床仕上
要望・意見等 託児室・キッズルームの床仕上をコルク床にしている、車椅子使用者の入室が断られるケースがあるため、配慮していただきたい。	
対応 コルクシートではなくカーペットタイルを採用した。  <キッズルーム>	

ベビーカー 置き場	5.配置計画
要望・意見等 多くのベビーカー利用者の来場が予想される。入口で預かるのか、競技場内に持ち込めるとしても適切な置き場所を設置していただきたい。	
対応 ベビーカー置場は、入場してすぐ預けられるよう各階ゲート付近に計画された案内カウンターの近くへ設置し、入場してすぐにベビーカーを預け、安心して競技を観戦できるよう配慮した。 <内観：ベビーカー・車椅子置場>	